ＮＰＯ支援の成果語る

東濃信金 職員が報告 会員減などへ対策提案

プロボノプロジェクトの成果を報告する東濃信用金庫の職員＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

東濃信用金庫の職員がスキルや経験を生かし、ＮＰＯ法人などの活動を支援する「とうしんプロボノプロジェクト」の本年度成果報告会が多治見市虎渓山町のとうしん学びの丘エールであり、ＮＰＯ法人「恵那山みどりの会」（中津川市）に職員が提案した。（松尾法尋）

職業上の知識や技能を生かして社会貢献する同プロジェクトは２０１３年度から始まり、昨年度までに東濃の四つのＮＰＯと１団体を支援している。恵那山みどりの会は森林保全や環境教育を行うＮＰＯ法人で発足16年目。会員減少や財政難などの課題解決に向け、昨年７月から同金庫職員16人がボランティア活動を行った。

職員は３グループに分かれ、市民アンケートを行ったほか、ＮＰＯの社会的価値を数値化する「ＳＲＯＩ（社会的投資収益率）」を算出し、現状を分析した。

報告会では職員が認知度や若手スタッフの不足を指摘。行政や商工会議所と連携し、子ども向けの土曜学習の実施やロゴマークの公募、会報充実などが提案された。

無断複製・転載を禁じます